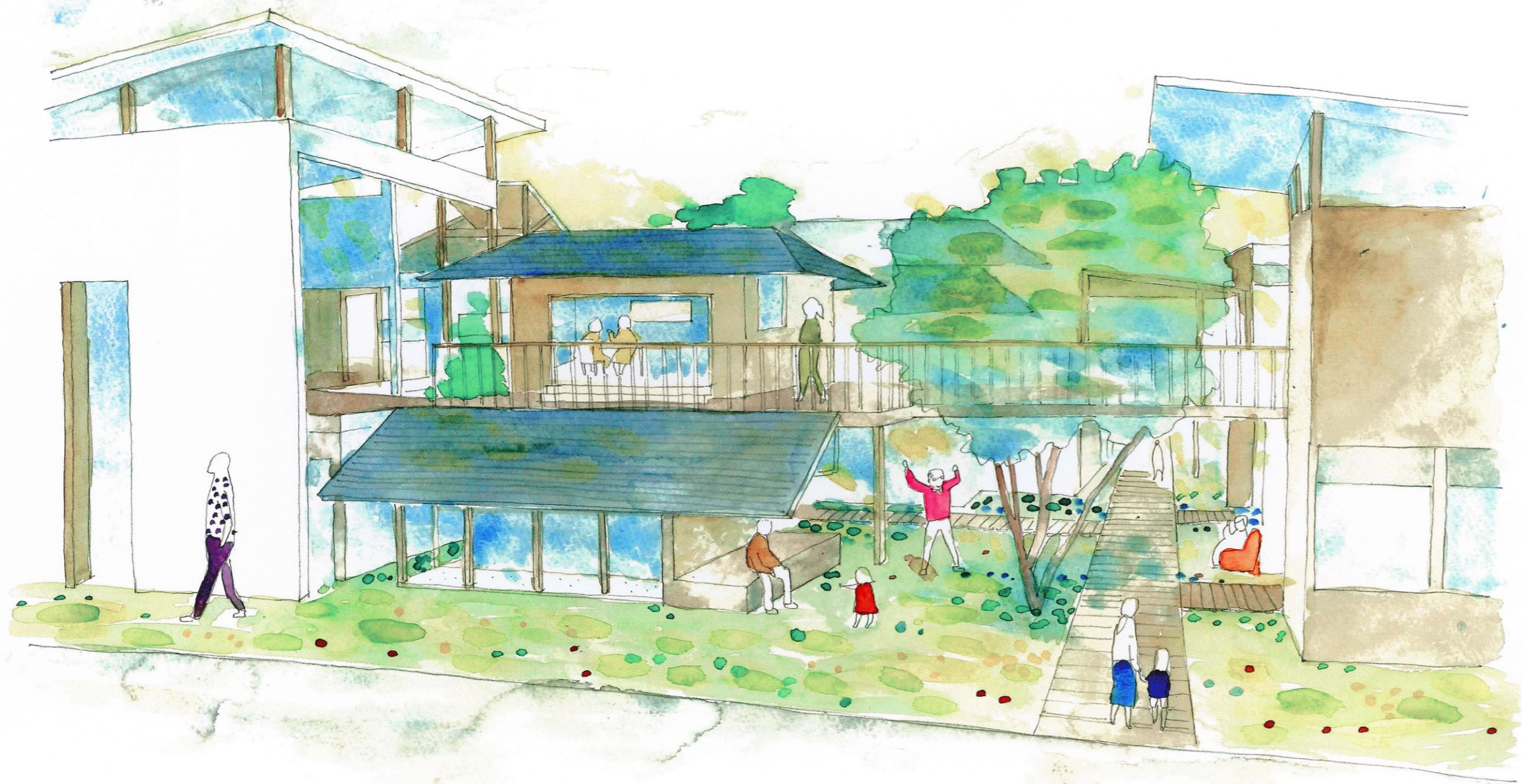


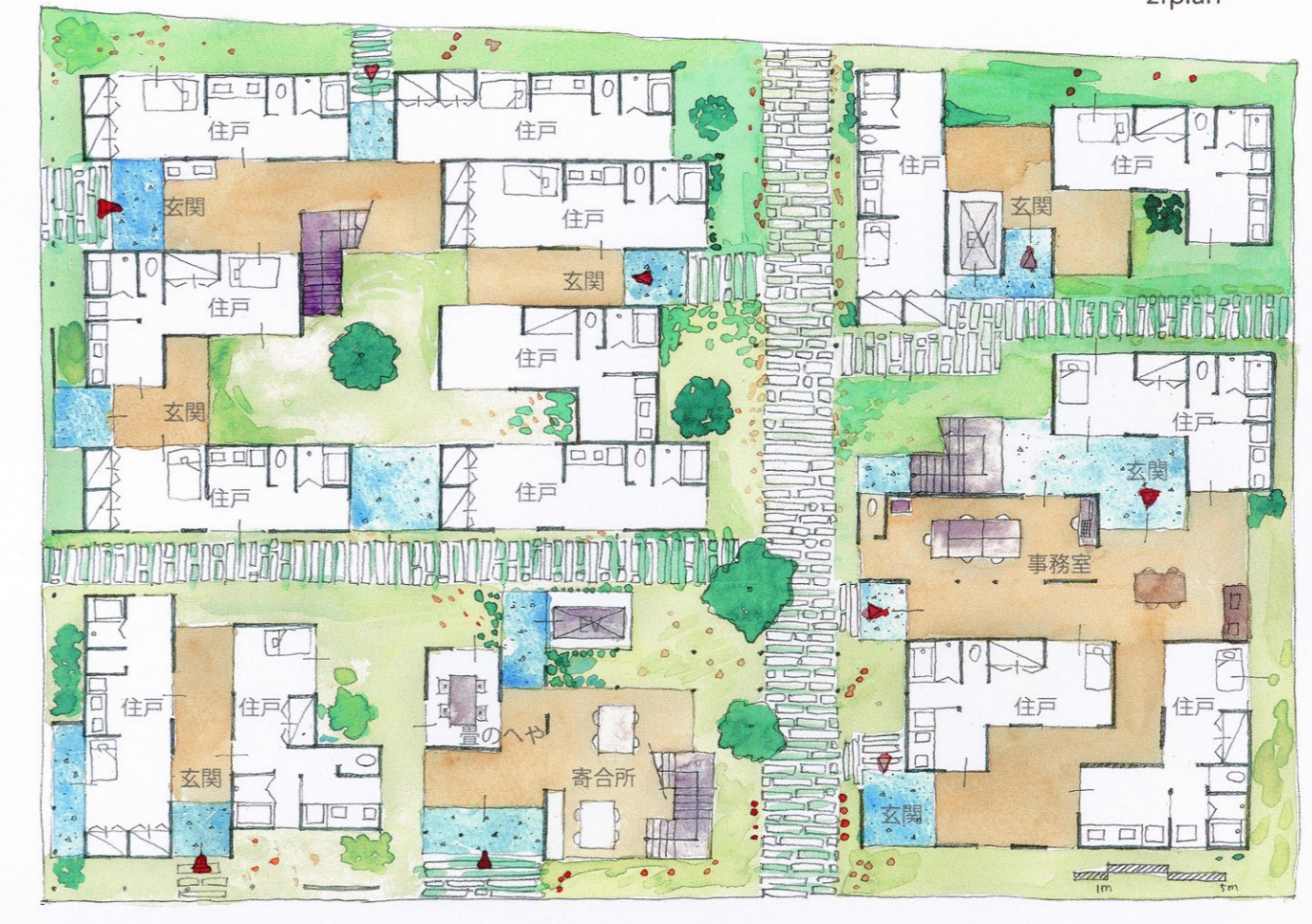
じいばばシェアハウス



section



2fplan



1fplan

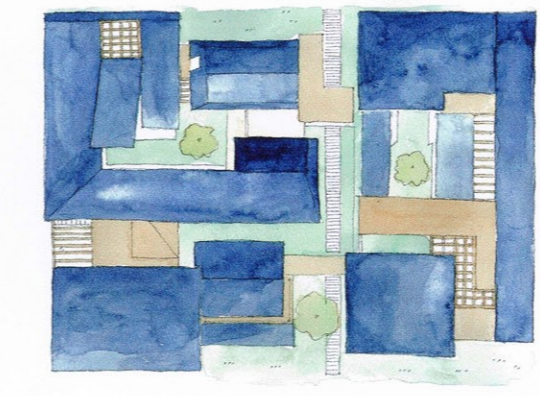
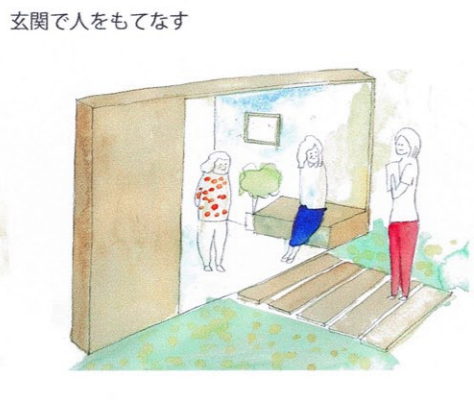
敷地に面した道路から見た建築の風景

立ち寄りたくなる高齢住宅

日本は現在「サービス付き高齢者向け住宅」の建設を推し進めている。生活をサポートしてくれるスタッフが見守っている環境に安心して毎日を過ごせるという高齢者向けの住宅である。今までの高齢者施設と同様に、街の人は高齢者施設に関心を向けず、入居者が街へ出て行くことはほとんどない。住むのが楽しい高齢者のシェアハウスができないだろうか。豊かな暮らしは豊かな心をつくる。元気で優しいお年寄りたちとお話すると心がほっこりする。お年寄りは街の人たちにとって、魅力的な存在として生きてゆく。入居者が社会に対して積極的な活動を続けられる環境、街と入居者がお互いに見守りあうような関係を育む建築を目指した。

GLレベルでの空間の抜け・寄りつく場所

ハウスメーカーがつくる街並みは同じ材料、同じ寸法体系によるもので、非常に合理的だが平坦な風景だ。またそれらの住宅は内部空間を最大限に確保するため街に対して閉じている。人の気配のない街並みとなってしまう。建具やユニットバスなどの規格品はそのままに、壁は小さく屋根は大きくしてみる。人に近く、包まれた環境ができる。床や屋根を細く、空間を織り込む。光のムラと小さな場所が沢山できる。居場所を選べる。敷地に接続している道を延長し、敷地内を通り抜け小道をつくる。寄合スペースや自治会などができるホールを設ける。スタッフによって管理されていない、出入り自由な玄関があり、街の人や家族をもてなす共用部となっている。



roof plan

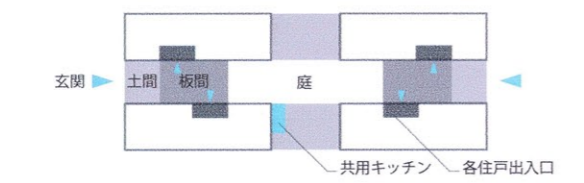
高齢住宅における自立と共生

自立
従来：施設の出入り口が一つしかなく、生活が管理下に置かれている
提案：各戸が玄関を持ち、自由に出かけられる

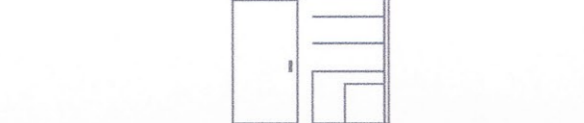
友達を自由に招待したい
街に出かけたい
遊びに来たマゴと一緒に過ごしたい
必要とされたい
仲間と仕事や作業がしたい
誰かと一緒に居合わせたい

共生
従来：周辺環境からの孤立
提案：建築によって拠り所を設えられたまちのひとたちの庭
家族や近所の人をもてなし、入居者が滞在する玄関やホール

玄関：もてなしの共用部分

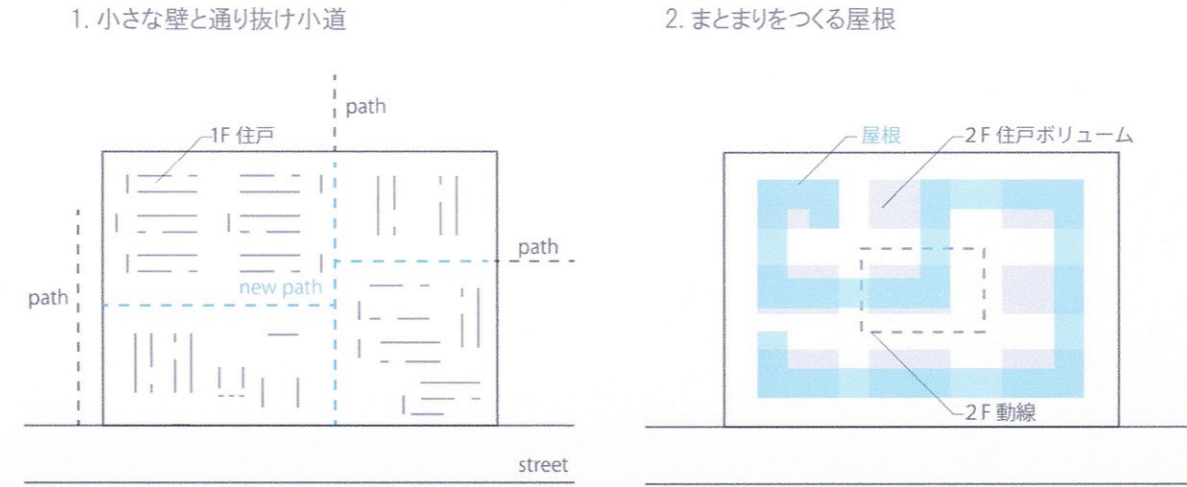


以下は1f部分の各ユニットの平面ダイアグラムだ。まちの人、お客さん、家族をもてなし、一緒に過ごすための玄関が住戸間に配置されている。



小さな軒、持ち物や個性を表出させる棚、小さなベンチ。

空間を織り込む



1. 小さな壁と通り抜け小道
2. まとまりをつくる屋根